



プレスリリース

ZOIA SKOROPADENKO
ゾヤ・スコロパデンコ
福島とチェルノブイリに捧げる作品展
“5*30”

会場：在日ウクライナ大使館
〒106-0031 東京都港区西麻布3丁目5-31

会期：2016年4月13日～6月17日（平日のみ）

プレスビュー：2016年4月12日

連絡先： 090-1706-4664（酒巻） takayo.sakamaki@gmail.com

日本とウクライナは原発事故という痛みを共有する国同士です。2016年4月12日に、ウクライナ出身の画家 ゾヤ・スコロパデンコは、東京六本木の在日ウクライナ大使館を会場に、作品展“5*30”を開催いたします。この作品展は、原発事故から5年を迎えた福島と、30年を迎えるチェルノブイリに捧げるものです。

今回展示されるのは、日本の伝統的な絵巻物よりインスピレーションを得た絵巻物作品です。紙を広げていくと物語が展開していく絵巻物に倣って、ゾヤも作品の中で、両国の悲劇、復興の過程、そして将来の希望への道のりを描いています。時間の経過と、希望へと至る感情の変化を一つの作品の中で描くことができる表現手段は、ゾヤにとっては対象を表現する現代的な方法にも思えます。

時間は、決して消えることのない傷をも癒し、希望は、厳しい道のりにも光を投げかけます。

私たちの目に見える建物や街並などは、様々な視点からゆっくりと変化の兆しを見せ、荒れた土地は再生していきます。被災した土地に戻るのとは人々にとって簡単なことではありませんが、自然は全く問題にしません。一見もろいように見える自然は、実は人間より力強く、再生と治癒の力を示します。

ゾヤ・スコロパデンコは日本を愛しています。世界各地での忙しい展示会のスケジュールを縫って、頻繁に来日しています。来日する度に、金継ぎ、蒔絵、墨絵など日本の伝統的な芸術や工芸を学び、日本の美意識への理解を深めながら、彼女の作品にもそれらの手法やアイデアを取り入れています。今回展示する作品は、日本の伝統的な屏風絵や墨絵、金継ぎに倣ったもので、日本の墨や金を用いて制作されました。

ゾヤは、福島とチェルノブイリ両方について、古くから伝わる人形や、陶芸、ガラス、木工品、郷土玩具などの伝統工芸、またその土地の歴史についてもリサーチしました。人々が被災地から離れることがあったとしても、先人から伝えられた伝統や土地への愛着を大切にしたいという願いを込めて、今回の作品には、チェルノブイリが位置するウクライナのポリシア地方に古くから伝わる伝統的な陶芸作品に描かれる動植物や、福島の相馬駒焼に用いられる馬の文様などを取り入れました。

ゾヤ・スコロパデンコは、活動の初期には環境ジャーナリストとしても知られたウクライナ出身のアーティストです。彼女は、チェルノブイリと福島の両方に個人的なつながりを感じています。20年ほど前に、ゾヤはノルウェイやフランスの環境専門家達と一緒にチェルノブイリ地方を訪問しました。その時の経験や、昨年福島を訪問した際に体験したこと、出会った人々などが、彼女にこれらの土地への強い愛着を抱かせました。

「福島とチェルノブイリの復興のために希望を投げかけたいと願っています。時間、忍耐、そして未来への展望は癒しの力を与えてくれます。復興への長い道のりについて私なりに熟考し、作品を制作しました。」

ゾヤは、何でも自分の目で見て経験したいと思っています。例え怖いことや悲しいことがあっても、経験して理解したいと考えています。彼女は、チェルノブイリ近郊の、人々に捨てられ、自然に支配された町の中を歩き、「サマショール(立ち入り禁止区域の土地に自らの意志で住んでいる人々のこと)」の高齢者達に出会い、彼らの体験や想いに触れました。それから20年後、東日本大震災の発生から5年後に、今度は福島を訪問し、相馬市の高校に「The Hope」と名付けられた彫像作品を寄贈し、生徒たちを対象にアートワークショップを行いました。ゾヤはそれだけでは満足せず、今後も土地の人々に会い、震災後5年が経った現状について、もっと理解を深めたいと思っています。

プレスの皆様へ

ゾヤ・スコロパデンコは、4月15日まで東京に滞在の予定で、その期間中インタビューや質問を受けることができます。

東京滞在中は、都内の公園で、日本の美しい自然からインスピレーションを得ながら絵画を制作しています。制作風景の撮影のご希望がある方は、酒巻までご連絡下さい。

連絡先 takayo.sakamaki@gmail.com

ゾヤ・スコロパデンコ作品展 “5*30”

会場： 在日ウクライナ大使館
会期： 2016年4月13日～6月17日（平日のみ）
開催時間： 10時～17時
参加費： 無料

Facebook: Zoia Skoropadenko
Instagram: zoiaskoropadenko
Pinterest: zoiart
Twitter @Zoiaskoropadenk, #Fourseasons
Email: zoia.skoropadenko@gmail.com
Phone: +336179084855
Website www.Zoia-art.com

Zoïa Skoropadenko

ゾヤ・スコロパデンコ

ゾヤ・スコロパデンコは、1978年にウクライナで生まれました。当時のウクライナではアーティストになる教育を受けるには多額の費用を必要としたため、彼女は自分の夢をかなえるために、飢えをしのぎ、住む場所にも苦勞する様な生活を送っていましたが、しばらくの後にモナコでの仕事を見付け、母国を後にします。

移り住んだモナコの地で、MAMAC (ニース現代アートミュージアム: Museum of Contemporary Art in Nice) のアートスタジオに参加し、その後、モナコの国立芸術委員会のメンバーとして認められました。

新たな地で夢を追い続ける生活を送っていた2008年のある日、地元の漁師から、お昼ご飯にでも、とタコ(蛸)をもらったことがきっかけで、彼女の代表作である「TORSOS (トルソ)」のシリーズが誕生しました。

その4年後にはロンドンで初の個展を開き、その独創的な作品がアート雑誌などから取り上げられたことをきっかけに、彼女の作品は世に知れるようになります。

2009年に、スコロパデンコは「La Vitrine (ショーウィンドー)」と名付けたコンテンポラリーアートの展示スペースを、モナコの地にオープンさせます。そして2014年9月に、スコロパデンコと彼女の「La Vitrine」は、ニューヨークのタイムズスクエアの大画面に映し出され、世界の中でも最も小さい国にある、独立系コンテンポラリーアートスペースが5周年を迎えたと紹介されました。

ゾヤ・スコロパデンコは、マルセイユ・アートコンスールの国際アートサロンにおいてウクライナ国代表としての役割を3年間務めました。

また、2011年には、フランス・ストラスブールの欧州議会にて開催されたウクライナ印象主義展のキュレーターを務めました。

また同年には、モナコ政府より政府公認画家としての認定を受けています。

2013年にはストラスブールの欧州評議会にて、ウクライナの旗の下、彼女のキャリアの中で最も規模の大きい個展を開催しました。

現在では、イギリス、フランス、中国、アメリカなど世界各国で定期的に作品を展示しています。

2015年の1月および2月にロンドンおよびパリにて開催した二つの展覧会は、BBC ワールドおよびFrance 2などのメディアに取り上げられ、インタビューを受けました。

<http://www.bbc.co.uk/programmes/p02hq61c>

[http://culturebox.francetvinfo.fr/le-blog-de-thierry-hay/2015/02/05/zoia-skoropadenko-une-](http://culturebox.francetvinfo.fr/le-blog-de-thierry-hay/2015/02/05/zoia-skoropadenko-une-exposiQon-controversee-dans-un-cloitre.html)

[exposiQon-controversee-dans-un-cloitre.html](http://culturebox.francetvinfo.fr/le-blog-de-thierry-hay/2015/02/05/zoia-skoropadenko-une-exposiQon-controversee-dans-un-cloitre.html)

また、彼女は東北の被災地支援のプロジェクトにも積極的に役割を果たしています。2014年には、アーティストを夢見る被災地の子どもたちを支援する日本のNPOのプロジェクトに参画し、モナコ側事務局として、子どもたちの王宮への表敬訪問や現地の著名なアーティストのアトリエ訪問などを実現させました。

ゾヤ・スコロパデンコは実用品のデザインも手掛けており、彼女の作品は世界中で販売されています。

お問い合わせ:

ゾヤ・スコロパデンコ本人 zoia.skoropadenko@gmail.com

日本側窓口(酒巻) takayo.sakamaki@gmail.com